

水稲新品種「レイホウ」について

岡田正憲・西山寿・本村弘美・甲斐俊二郎・和佐野喜久生

(九州農業試験場)

OKADA, M., NISHIYAMA, H., MOTOMURA, H., KAI, S., and WASANO, K.

A New Variety of Paddy Rice Plant, "REIHOU"

かねて配付試作中の水稲西海 100号は昭和44年から福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎の6県で、奨励またわ認定品種に採用され、通称名を「レイホウ」として、普及に移されたので、育成経過ならびに特性その他の概要をのべて参考に供したい。本品種の育成に直接従事した職員は筆者等および藤井啓史・今井隆典であるが、関係名府県農業試験場・支場・分場・試験地の係官のご協力によるところが大きく、ここに深甚の謝意を表したい。

来歴ならびに育成経過

レイホウは昭和34年、農林省九州農業試験場(筑後市)で、西海62号(のちのホウヨク)を母、綾錦を父として人工配交を行ない、さらにその年、ガラス室で晩期栽培によりF₁を養成して世代促進を行ない、その後も同場で集団育種法により育成された。

昭和41年より「西海 100号」の系統名で、九州・四国・山陽地方ならびに東海近畿地方の一部の各府県に配付し、地方的適否を確かめてきたものであるが、その成績良好であり、昭和44年5月(F₁₁)「水稲農林 200号」として登録、通称名を「レイホウ」と命名された。

特性の概要

1. 形態的特性 稈長、穂長、穂数ともにホウヨクに似て、やや短稈穂数型のうち品種である。稈の太さはやや細く、稀に白の短芒をつけ、稃先は白く、稃色は黄白である。粒着は中の密で、脱粒性はやや易である。玄米は中形中粒で餡色を呈し、品質食味は良好でホウヨクにまさる。玄米千粒重はホウヨクよりわずかに重く、草状はホウヨクによく似て止葉は細く直立し、熟色は鮮美である。

2. 生態的特性 出穂・成熟期ともにホウヨクより1~2日おそく、九州北半では晩生の早に属する。倒伏にはきわめて強くホウヨクにまさる。葉いもち病と穂首いもち病には強く、ホウヨクの弱点を十

分に補っている。白葉枯病にはやや強く、ホウヨクと同程度である。紋枯病には中位で、縞葉枯病には弱いが日本稲品種のなかでは上位にある。

第1表 一般特性

形質	品種系統名	レイホウ	対象ホウヨク	比較タチカラ
早草	中	晩	中	晩
出穂	穂	型	穂数型	穂数型
稈長	期	9月9日	9月8日	9月12日
穂長	長	83cm	86cm	86cm
穂数	数	19.8cm	20.2cm	21.0cm
芒の多少	長短	16本	15本	15本
稃先色	稀・短	稀・短	稀・短	無
脱粒性	白	白	白	白
耐倒伏性	やや易	極強	極強	難強
葉いもち病耐病性	強	強	やや弱	弱
穂首いもち病耐病性	強	強	やや弱	やや強
白葉枯病耐病性	強	やや強	やや強	やや弱
紋枯病耐病性	中	中	やや強	中
縞葉枯病耐病性	中	やや弱	弱	弱
a 当玄米重	63.5kg	60.4kg	62.5kg	
玄米千粒重	23.3g	22.8g	23.7g	
玄米品質	上	中	中	
食味	やや良	中	良	
調査地	九州農業試験場(昭40~43年の4カ年)			

適地および奨励品種採用県

九州、四国地方の平坦肥沃地ならびに一般平坦地で、主としてホウヨク、タチカラに代わるものとして普及するであろう。昭和44年度から宮崎県で奨励品種に、佐賀・長崎・熊本・大分の各県で認定品種に、福岡県で有望品種に採用され、それぞれ普及に移されることになった。

栽培上の注意

草状がホウヨクによく似ているので、栽植密度、施肥量、施肥法などはホウヨクと同様でよい。また加里成分の欠乏に敏感であるので、不足しないように注意すること。縞葉枯病、萎縮病に対して弱点があるので、極端な早植をさけ、窒素の多用や偏用をさけ、集団的な防除や管理が望ましい。

命名の由来

レイホウは「麗豊」を意味し、多収良質で安全性に富み、熟れ色もよく、農家に豊産を与える意。